

## 要旨

### I. 研究目的

本研究の目的は、家族出産の経験が豊富な助産師が、家族出産の場で、家族に対してどのようなケアを行っているかを明らかにすることである。

### II. 研究方法

本研究は、家族出産の参加観察と助産師への半構造化面接法により、家族に対する助産師のかかわりを分析した、質的研究法を用いた記述研究である。対象とした助産師は、家族出産を行っている助産所の開業助産師または家族出産における経験が豊富な助産所勤務助産師であった。得られたデータは、質的帰納的に分析し、コアとなるカテゴリーを抽出した。なお、本研究は聖路加看護大学倫理審査委員会の審査を経て実施した(承認番号: 12-032)。

### III. 研究結果

家族出産を行っている助産所 3 施設において、助産所出産 2 例、自宅出産 2 例の計 4 例の家族出産を通して、5 名の助産師にインタビューを行った。その結果より、家族出産の場における家族に対する助産ケアとして、3 つのコアカテゴリーと 9 つのカテゴリーが抽出された。【産婦の安全で安楽なお産を守る】は《産婦の気持ちを最優先する》《産婦がお産に集中できる人的環境を整える》《常に安全確保を優先する》で構成され、すべてのケアの基盤となっていた。【日常生活の延長としてのお産をサポートする】は《その家族らしさを尊重する》、《家族の緊張をほぐす》、《お産における違和感を軽減する》で構成されており、さらに【新しい命の誕生を家族が成長する機会とする】は《家族の絆を強める》、《新しい家族役割への移行を助ける》《お産が家族にとって良いスタートとなるようにサポートする》で構成された。

### IV. 結論

以上より、家族出産における家族に対する助産ケアには、産婦の安全で安楽な出産を守るという基本に立ちながら、家族が出産に主体的に参加できるように、出産をできるかぎりその家族の日常生活に近いものとし、家族が育まれる機会とすることが重要であることが明らかとなった。また、家族出産へのかかわりは、分娩期のみで成り立つものではなく、妊娠期からの一貫したかかわりが重要であることも示唆された。